



東京2020大会における ジェンダーの平等の推進について

2021年3月2日

「多様性と調和」のこれまでの取組

○オリンピック憲章

人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的又はその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も禁止



○東京2020大会ビジョン「スポーツには、世界と未来を変える力がある。」

“すべての人が自己ベストを目指し、一人ひとりが互いを認め合い、そして、未来につなげよう。”



○大会の理念の実現とレガシーに向けた「人づくり」

D&I宣言



組織風土づくり



接遇・サポート研修



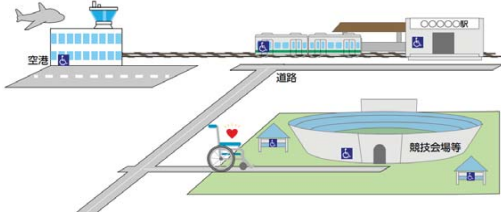
大会ボランティア研修



大会時の「多様性と調和」

1 誰もが利用しやすい環境

○Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン
障がいの有無にかかわらず、全ての人に会場までのアクセシビリティを確保



競技会場の車いすユーザーのサイトライン確保（前列の人が立ちあがっても競技が見える）は東京大会が初めてであり、国の建築設計基準に反映された。

○多機能なトイレと補助犬用トイレ

- ・全競技会場及び選手村に、車いす使用者、高齢者、障がい者、子ども連れなど多様な人が利用可能なトイレを、必要とする人が確実に使用できるよう機能別に分散設置
- ・補助犬のトイレについても競技会場に対応

○礼拝スペース

競技会場に礼拝ができるスペースを設置

2 きめ細かなサービス

○医療提供における配慮

- ・選手村総合診療所の医師のジェンダーバランスに配慮
- ・大会史上初めて、女性アスリートの総合的なサポートを行う「女性アスリート科」を設置

○多様性に配慮した料理

- ・世界から訪れる選手の食習慣や宗教上の食に配慮し、ハラールメニュー、ベジタリアンメニューを提供
- ・大会の飲食の検討にはアスリートをはじめ、多くの方が参加



○セキュリティチェックでの配慮

- ・車いす使用者エリアの設置など、多様性に配慮したセキュリティチェック
- ・コミュニケーションを通じて一人ひとりを尊重した対応を実施



2

TOKYO 2020

大会時の「多様性と調和」

3 心を込めたおもてなし

○東京2020ロボットプロジェクト

ロボットによる物品の運搬や観戦席への誘導を通じ、車いすの方のストレスフリーな入退場・観戦をサポート



観戦サポートロボット（左）
運搬サポートロボット（右）
Vision Innovation(C)Toyota Motor Corporation

○会場における適切な人権対応

会場で人権に関する事案が発生した場合、ガイドラインに基づき、大会スタッフが毅然とした姿勢を持ちながら、対話を通じて適切に対処

4 競技で一人ひとりが輝く

※IOCとの連携により実施

○男女混合種目の採用

ジェンダーバランス実現のため、オリンピック7競技において混合種目を追加

○競技種目及び選手枠数の改善

オリンピック11競技において、男子のみ・女子のみの種目の男女共通種目への変更や、男女の選手枠数の同数への変更又は枠数の差の縮小を実施

○大会参加における男女平等

- ・大会史上初めて、入場行進するときの旗手は男女のペアで1本の旗を2人で持つことが可能に
- ・大会史上初めて、各国選手団から男女両方が参加する大会に

○審判・技術役員のユニフォーム

スラックススタイルへの統一、ユニセックスデザインのジャケットやネクタイ・スカーフの自由選択性など様々な国籍・年齢、着用シーンに対応

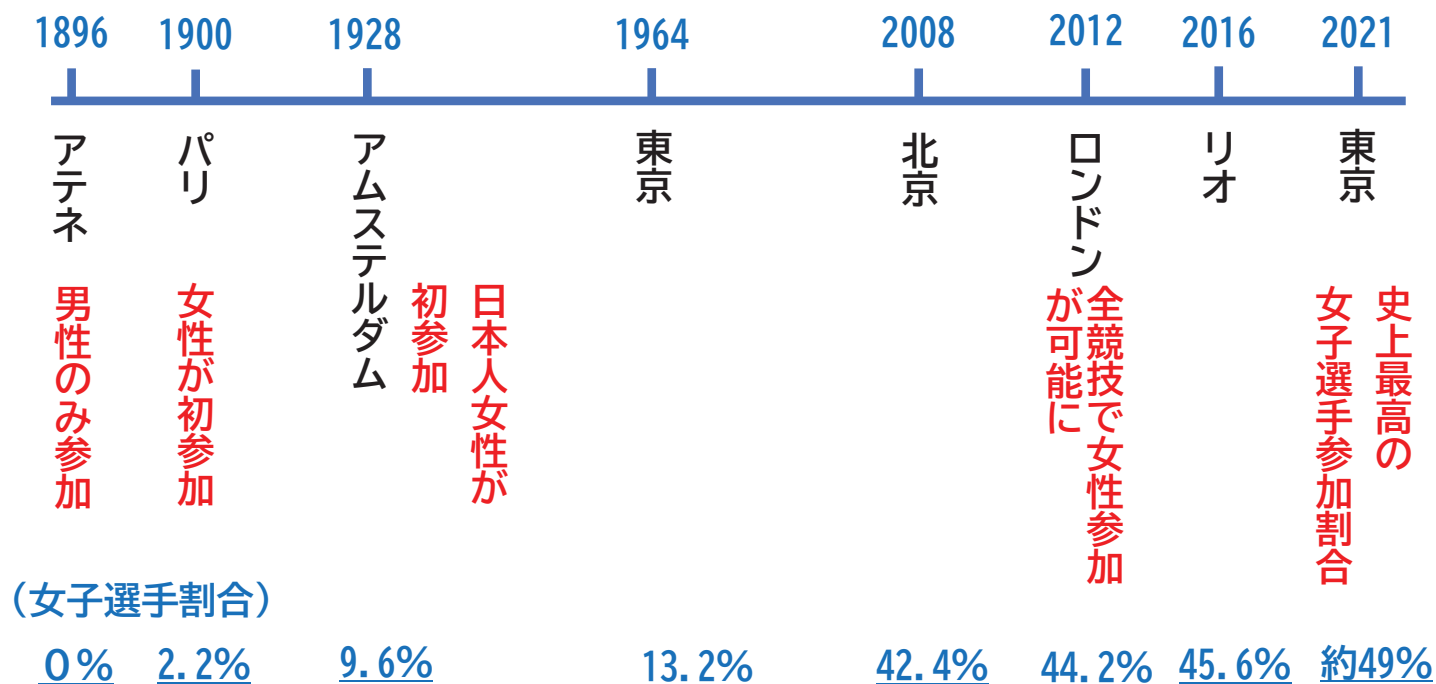


3

TOKYO 2020

(参考) オリンピックにおける女子選手参加割合 (夏季)

近代オリンピックの開催から120年を経て、男女がほぼ同数参加する大会が実現



(平成30年度版男女共同参画白書 (内閣府) を基に組織委員会作成)